



湖一小だより

平成29(2017)年1月20日

東近江市立湖東第一小学校

No.17

㊦つつつ学ぶ

㊧のちを大切に思いやる

㊨から強く、たくましく

<http://www2.higashiomi.ed.jp/kot1sho/>

三学期のめあては

少し長めの冬休みが終わり、1月10日から三学期が始まりました。始業式では、「暖かかった冬休みでしたが、一転して寒い日がやってくるかもしれません。けれど、今日の登校のように元気に、みんなでしっかりと学校に来られるとよいですね」と話しました。その通りではないのですが14日、15日の土・日二日間で、あっという間の雪景色となりました。久しぶりの雪ということでもないのですが、子どもたちは、大いに雪遊びを楽しんでいます。また、登下校に関わり、歩道の雪かきをしていただいたり、校門から駐車場、児童昇降口の除雪をしていただいたりと、地域の皆様にはいろいろと心配りをさせていただきありがとうございます。今後とも、子どもたちの見守りを含め安心、安全な学校づくりに向けてご協力をお願いいたします。



さて、始業式では、先の話に続けて次のような話をしました。それは、アメリカの大リーグで野球選手として活躍している、イチロー選手の言葉です。

イチロー選手は、昨年メジャーリーグで通算3000本安打を達成しました。

(日本でも1300本の安打を打って、大リーグに挑戦をして、両方を合わせると4300本になって、この記録は世界記録になるんだけど、なかなか認めようとしらない人もいて・・・という話は横に置いておいて)

そんなイチロー選手に「人の2倍も3倍も頑張っているんでしょね」と言ってくる人が結構いるそうです。でもイチロー選手は、「そんなことはないです」ときっぱりと言い切ります。「人の2倍、3倍も頑張ることって出来ないですねよ」と。「**頑張ることが出来るとすれば、それは、今の自分の限界、その自分に対してもう少しだけ頑張ってみる。それを重ねていくということ**」だとメッセージを寄せられています。

さて、このお話にはポイントが3つあると思います。

- 一つは、自分の限界までやってみるということ。限界を知ること
- 二つ目は、その限界に対して、限界とあきらめない気持ち、乗り越える勇気が必要
- 三つ目は、続けるということ。乗り越え続けられるかどうかということ

ヒットが出ない、打てない日が続いたとしてもあきらめない。打席に立てない、試合に出場できない日が続いたとしてもあきらめない。次に必ずやってくるであろうチャンスに向けて日々、今の自分から次の自分へと変化しようと頑張ることが出来るかどうかではないでしょうか。

去年の始業式では「一年の計は、元旦にあり」という話と「三日坊主は 何もしないより 三日も えらい」という話をしました。「何事もはじめが肝心」「計画は年の初めに立てるのが良い」という意味です。そして、たとえ三日でもやってみようと思っただけの方が、何にもしないよりずっと良いことなので、まずはやってみよう、チャレンジしてみようと言いました。今年も、立てた計画に向けて限界まで取り組むということ・上手いかななくても、失敗しても、繰り返し取り組むことの大切さを伝えました。

今年も、更に「一日の計は、朝にあり」という言葉も紹介しました。

今日は、「わくわくタイムがあるから楽しいな」「今日の給食は好きなメニューだから楽しみだ」「卒業を祝う会の計画づくりをどうするか、わくわくだな」「昨日暗唱の練習をしたから、今日は絶対合格するぞ」このように、その日の学習や活動に『めあて』を持てると、学校に来るのが楽しみになります。お家で前もって準備をする・稽古をする・考えておく、これら全て『自分でする』予習になります。この予習があると自信を持って『友だち』と話が出来ます。1時間目の国語は、2時間目の算数は、生活は、理科は、体育は・・・と、その日の朝、お家を出る時に、何か一つでも見通しを持てるものがあると、学校に来るのが楽しくなります。



今年の目標を、原稿を見ないでしっかりと発表する学年代表の子どもたち

朝、元気にあいさつをして家を出ることが出来る人に、今日はこんなことをやろうと少しでもよいので計画が出来る人になろうとも呼びかけました。ご家族の励ましの言葉や、少しの変化・頑張る姿に対する賞賛の言葉が子どもたちにとっては大きな意欲にもつながります。6年生は六カ年のまとめとして、他学年は一年のまとめと次年度に向けて目標が達成できるよう教職員一同支援を惜しまないで取り組んで参ります。

ブック・バック(B・B)の取組



毎年多くの本を市の予算を活用して購入をしています。新刊本が入ると、子どもたちも真新しい本に興味を持って借りている様子があります。ただ、本の持ち運びの中で、また、自席での保管の仕方において、少し気になることもあります。返却された本に汚れが目立っていたり、折り目がついていたり、傷みが早かったりします。



神山さんからオリエンテーションを受ける6年生の子どもたち

そこで、本を借りる・返す時、本を身近に置いておく時、家に持ち帰る時に活用する、本専用の袋を使うことになりました。絵本が入る程度の大きさで、布製の物が望ましいですが、紙バックでもかまいません。学校司書の神山さんから、学年ごとにオリエンテーションを受け、取組を始めました。本専用の袋(B・B)の持参にご協力よろしくお願いします。